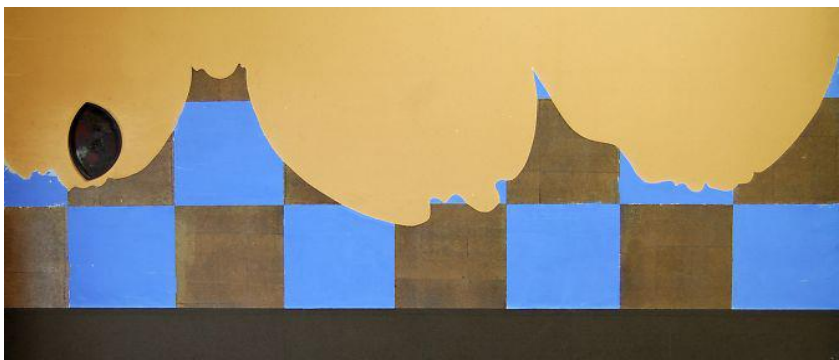


越智家茶室と桂離宮・修学院離宮の対応関係

桂離宮（一部修学院離宮）	越智家「牡丹庵」
①切石延段	
 桂離宮の「真の飛び石」の三角形などの幾何学模様	 越智家の玄関は当家自慢の御影石を重森が切断した。
②襖模様	
 桂離宮・松琴亭の市松模様の襖 なお、このデザインは重森の東福寺北庭の市松のデザインがヒントにもなった。	 ・銀色・青色・茜色の市松模様 ・銀色・青色の市松模様
③襖に大胆な花卉のデザインを描く	
当家の庵名は牡丹庵であるから、牡丹の全体をデザイン化するのが一般的であろうが、重森は全体を描くのでは印象が弱くなるため、花卉の一部のみを超拡大して牡丹庵のデザインとした。この手法は桂離宮の笑意軒に夏を象徴するデザインとして雲海が描かれているが、これをヒントにしたのではなかろうか。	
 桂離宮・笑意軒の雲海を象徴した襖	 白牡丹の花弁を拡大したデザイン

④円窓のデザイン

重森は古典建築から小円窓、大円窓、半円窓と多くの様式を再現している。



桂離宮の笑意軒の下地窓



牡丹庵の躑口と連子窓で、その上に日月星の小円窓の下地窓

⑤網干模様

網干模様として有名なのは修学院離宮にあるが、重森は障子の腰板に多く採用した。越智家においては以前納屋であった建物に、これがデザインされた障子を嵌めることによって、以前とは全く異なった洒落た雰囲気になった。



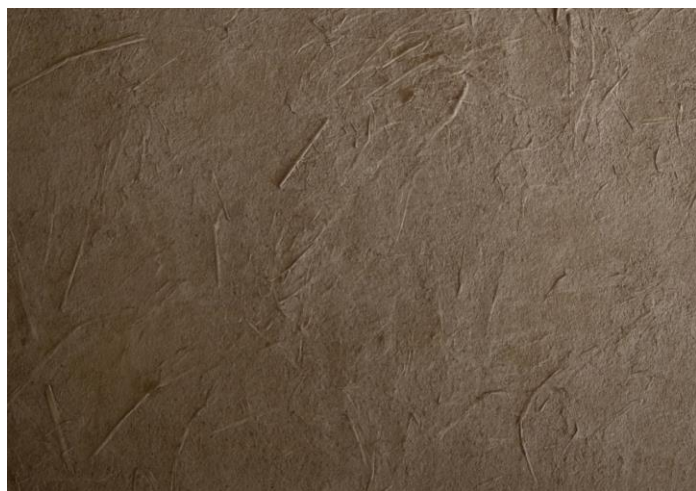
修学院離宮・中の茶屋の網干模様欄干



以前は納屋であったが、このデザインされた障子で見事な
寄付として甦った。

⑥ 劫壁 (すさかべ)

重森は侘びの世界を形にするために大徳寺の玉林庵の「蓑庵」刳壁の再現に努めた



栄光寺(重森三玲作・昭和 35)



牡丹庵の芍壁

⑦障子の腰板のデザイン

越智家の障子の腰板のデザインは桂離宮の月波楼からヒントを得たのではなかろうか



月波楼の障子腰板棧の吹き寄せデザイン



越智家書院の障子の吹き寄せデザイン

⑧茶室の天井に葦を使用

牡丹庵茶室の点前座の天井は、これまた松琴亭の茶室からのヒントではなかろうか



松琴亭茶室の菰天井



牡丹庵の点前座の蒲天井

⑨竹の節を活かした廊下床のデザイン

古典の例としては修学院離宮の隣雲亭である。重森は多分このデザインを活かして草庵の雰囲気醸し出そうとしたのではないだろうか。



修学院離宮・上の茶屋（隣雲亭）



竹の節の模様を活かした牡丹庵の廊下

⑩砂雪隠

茶室と云っても一般的には砂雪隠は無いところが多いが、越智家では桂離宮の外腰掛の砂雪隠を意識してか、外腰掛横待合横浦に構成されている。



桂離宮の外待合横にある砂雪隠



牡丹庵には砂雪隠がある、

⑪瓢箪窓



桂離宮・松琴亭二の間の違い棚下の瓢箪窓



越智家書院の瓢箪窓



越智家座敷にて重森三玲よりの説明を受けるイサム・ノグチ 1957/4/18

(越智栄一氏撮影 イサム・ノグチ財団および庭園美術館、ニューヨーク；寄贈：越智信男氏)。